

2015.1.21 佐倉歴史同好会にて 藤由美

臼井周辺の民間信仰の石造物と 北総の子安様



小竹後谷津庚申塚



生谷専栄寺の子安塔

第1部

臼井周辺の旧村の風景

史跡・古道・石塔群を歩く



生谷の県道沿いの馬頭・庚申塚



井野の古道入口の道標付の秩父巡拝碑



上座の庚申塚

(1) 史跡と名所-1 臼井城址と宿場の面影



臼井城主郭部と印旛沼



臼井城宿内砦跡



八幡台八幡社



中宿の高札場と道路元標

(1) 史跡と名所-2 臼井～生谷



臼井光勝寺



王子台一夜城公園



生谷専栄寺 女人講石塔群



ぽっくり弁天

(1) 史跡と名所-3 井野

佐倉市名勝 加賀清水



井野城跡

八社大神



千手院



(1) 史跡と名所-4 先崎



佐倉市指定有形文化財 鷲神社鳥居
鷲神社本殿



佐倉市民文化資産[先崎鷲神社の神輿及び神輿渡御]



佐倉市指定有形民俗文化財 先崎地藏尊 慶安3年（1650）

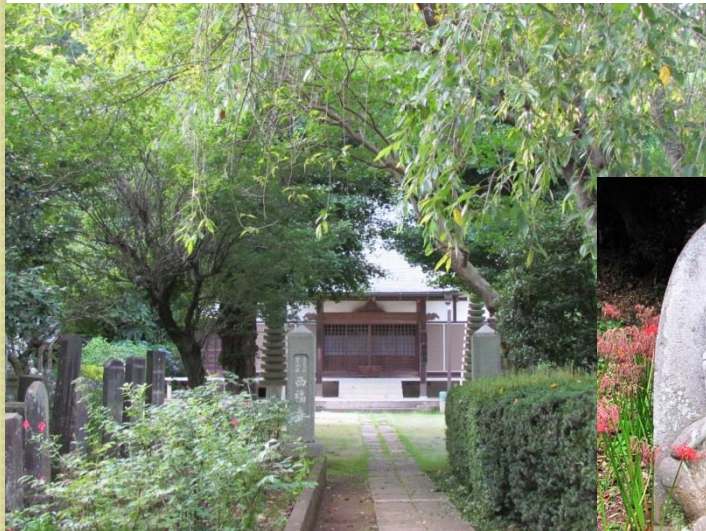


(1) 史跡と名所-5 青菅・小竹・上座

佐倉市民文化資産 小竹城跡



旧青菅分校



小竹 西福寺 延宝3年 如意輪観音像



上座 宝樹院

(2) 古道と道するべ-

成田街道

加賀清水入口の

「七代目市川團十郎の道標」

(1831)

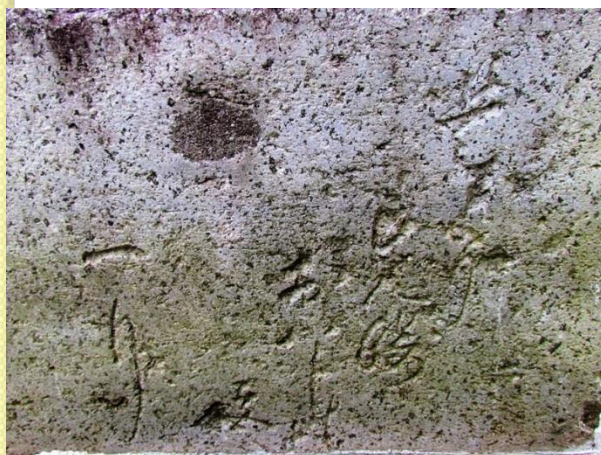
天はちち 地はかかさまの
清水かな

天保二 成田山道 是より北へ半丁
辛卯年 清水原中有り
九月吉日

是より
先崎
お八しの
宮へ
一り



是より
ちは町
妙見
三り



(2) 古道と道しるべ-2

光勝寺下の三叉路の
「成田道」道標
(文化3年1806)と
「さくら道」地藏像道標



臼井台丁字路の
「成田ミチ」道標
(文化3年1806)



臼井台路傍の
子安像道標
(安政4年1857)



臼井台実蔵院の
子安像道標
(文政5年1822)



(2) 古道と道するべ-3



井野の聖観音像秩父巡拝塔道標（安政6年1859）



先崎鷲神社北の二十三夜塔道標（文政2年）



小竹三叉路の聖観音像秩父巡拝塔道標（文久2年）と
庚申塔道標（文化10年）

(2) 古道と道しるべ-4

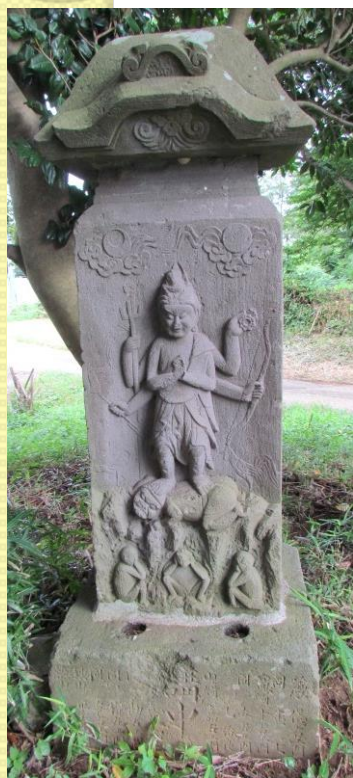


小竹中台三叉路の秩父巡拝塔と庚申塔道標（文化10年1813）

小竹水神橋T字路の馬頭観音塔と御大典記念道標

第2部

路傍の民間信仰の石造物



延享2年（1745）小竹後谷津庚申塚



小竹後谷津庚申塚



成田街道八丁坂の馬頭観音など石塔群

(1) 庚申塔とは

庚申待は、60日に1回庚申の夜に、三尸が眠った人間の体から抜け出し天帝にその人の罪過を告げに行かないよう徹夜するという、中国の道教に由来した信仰でした。

室町時代ごろからは、各地で「**庚申講**」が行われ、**庚申供養塔**も建てられました。

中世は「板碑」、江戸時代初期からは、願文を刻んだ板碑型石塔や、**三猿**とともに如来や菩薩像を浮彫した石仏が作られるようになり、寛文期からは、**青面金剛を本尊**とする庚申塔も現れ始めます。

江戸中期には、青面金剛像に、日月や三猿（見ざる・聞かざる・言わざる）、邪鬼や鶏を伴う手の込んだ彫りの石塔が流行、またその憤怒の形相に悪魔退治の願いを込め、村の入り口などに建てられるようになりました。



臼井田の庚申塚



寛政4年（1792）井野庚申塚

(I) 庚申塔-1



寛文3年(1663)新町嶺南寺



寛文10年(1670)と延宝3年(1675)海隣寺町愛宕神社



延宝3年(1675)上座S家

(1) 庚申塔-2



延宝4年（1676）
下志津原路傍



延宝5年（1677）
臼井田浄水場そばの田の中



元禄4年（1691）
先崎みどり台霊園



宝永4年（1707）
海隣寺町熊野神社

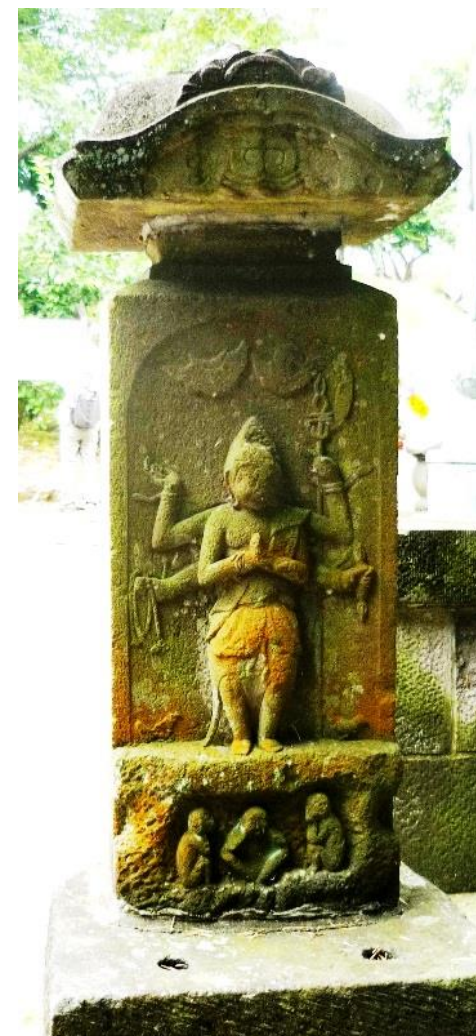
(1) 庚申塔-3



正徳2年(1712) 先崎地藏尊



正徳5年(1715)
臼井台手繰坂の上



享保元年(1716)
臼井光勝寺

(I) 庚申塔-4



元文 5 年 (1740)
小竹三叉路



元文 5 年 (1740)
江原新田麻賀多神社傍



寛延 3 年 (1750)
青菅旧分校跡



寛延 3 年 1750)
小竹中台三叉路



安永 9 年 (1780)
臼井田の田の中

(1) 庚申塔-5



上座庚申塚 天保8年（1837）



青菅旧分校 享和3年（1803）



小竹三叉路 文化10年（1813）



井野庚申塚 万延元年（1860）

(2) 梵天塚・出羽三山碑-1



生谷梵天塚



小竹梵天塚



井野梵天塚
平成12年（2000）



上座皇産霊神社

(2) 梵天塚・出羽三山碑-2



青菅三山塚 安永9年(1760)



臼井古峯神社 明和4年(1767)



小竹梵天塚 咳神



上座皇産霊神社
文久2年(1862)

(3) 馬頭観音塔-1



生谷県道64号線路傍

享保17年（1732）



宝暦11年（1761）

(3) 馬頭觀音塔-2



臼井田八丁坂路傍

延宝3年（1675）



(3) 馬頭観音塔-3



寛保3年（1743）小竹三叉路



寛保4年（1744）青菅



明和元年（1764）井野千手院

元文元年（1736）か？
上座手繰不動尊

(3) 馬頭観音塔-4



宝暦10年（1760）
江原新田麻賀多神社横



文化14年（1817）
上座廃道脇

(3) 馬頭觀音塔-5



明治16年（1883）&不明 上座新田



明治31年（1898）小竹



明治38年（1905）青菅



近代 小竹

第3部

女人講の石造物



享保5年（1720）先崎
十九夜講の六地藏



宝暦10年（1760）先崎
雲祥寺 十九夜塔



昭和15年（1940）先崎
雲祥寺 子安塔

(1) 十九夜塔とは

旧暦19日の夜、女性が寺や当番の家に集まって、講を開き、如意輪観音の前で経文、真言や和讃を唱える行事を「十九夜講」と呼び、関東北東部で盛んに行われていました。

十九夜講が、祈願の信仰対象あるいは成就のあかしとして建立する石塔が「十九夜塔」で、主に、右手を右ほほに当て首をかしげ、右ひざを立てて座る姿の如意輪観音像が主尊として彫刻されています。



寛文5年(1665)印西市小倉青年館

「十九夜念仏供養 二世安楽」などの銘文と、如意輪観音像を刻んだ典型的な十九夜塔が盛んに建てられるようになるのは、千葉県内では、寛文5年

(1665) 印西市(小倉青年館)からで、佐倉市内では寛文9年(1669) 臼井台実蔵院、近くでは享保7年(1722) 小竹西福寺が早く、現代(~1981)まで87基が残っています。

なお、千葉県内の寛文~延宝期の像容は、二臂より六臂の如意輪観音像が多く、また初期は聖観音像や先崎の六地藏像などの像容も見られます。



寛文9(1669)
臼井台実蔵院

(1) 十九夜塔-1



寛文12年（1672）臼井田常楽寺



享保14年（1729）青菅正福寺



宝暦10年（1760）先崎雲祥寺

(1) 十九夜塔-2



安永6年（1777）臼井台実蔵院



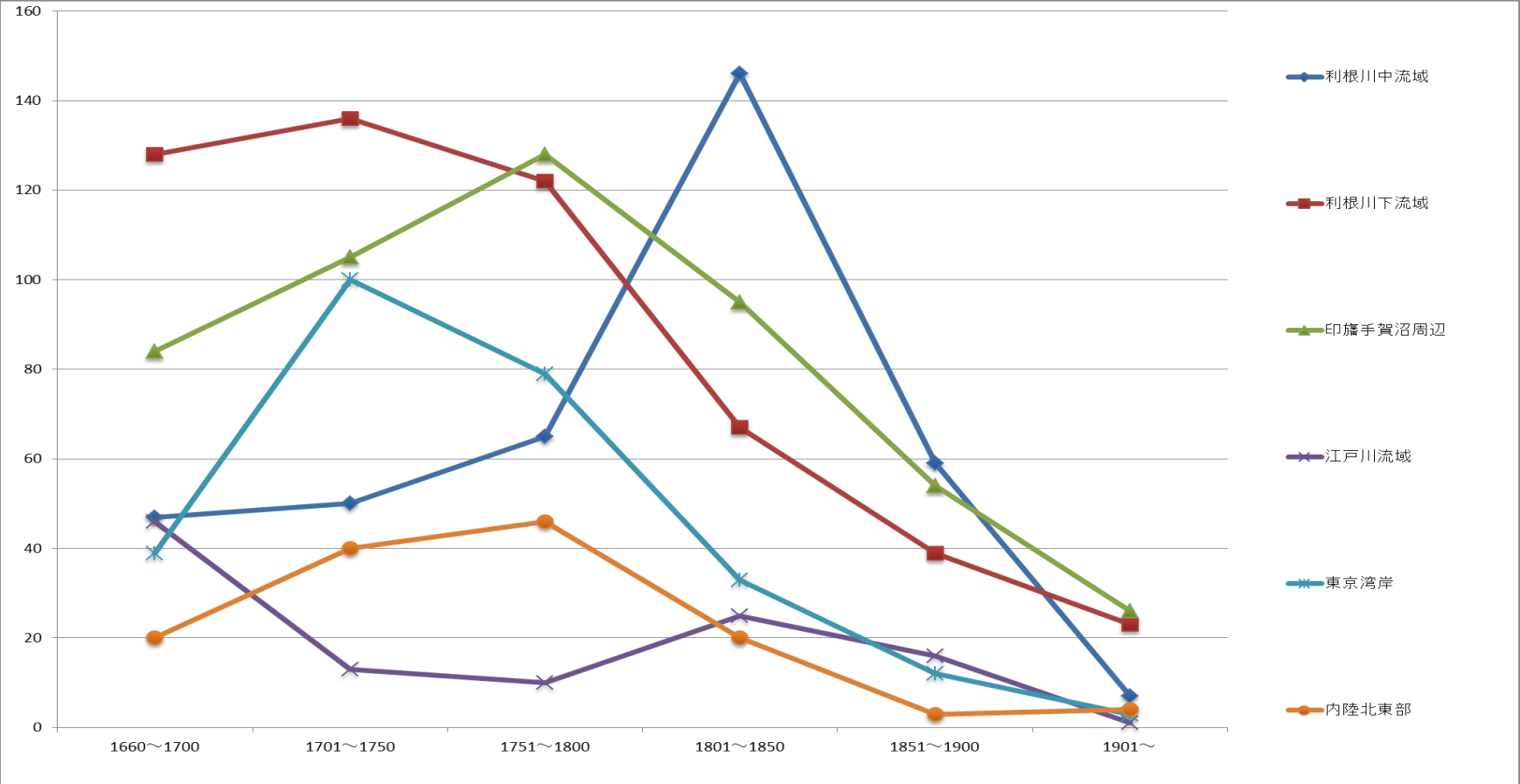
文化5年（1808）生谷専栄寺



文化9年（1812）上座宝樹院

西暦	利根川中流域	利根川下流域	印旛手賀沼周辺	江戸川流域	東京湾岸	内陸北東部	計
1660～1700	47	128	84	46	39	20	364
1701～1750	50	136	105	13	100	40	444
1751～1800	65	122	128	10	79	46	450
1801～1850	146	67	95	25	33	20	386
1851～1900	59	39	54	16	12	3	183
1901～	7	23	26	1	3	4	64
不明	9	41	24	5	18	9	106
合計	383	556	516	116	284	142	1997

エリア	市町村名						
利根川中流域	野田	柏	我孫子				
利根川下流域	印西	栄町	成田	佐原	東庄	小見川	
印旛手賀沼周辺	沼南	鎌ヶ谷	白井	八千代	佐倉	酒々井	印旛 本埜
江戸川流域	市川	松戸	流山				
東京湾岸	船橋	習志野	千葉				
内陸北東部	四街道	富里	大栄	山田	八日市場		



(2) 子安塔-1 (子安神石祠)



元禄16年(1703)
八千代市上高野子安神社



宝暦8年(1758) 上座熊野神社



宝暦9年(1759) 井野八社大神

(2) 子安塔-2 (子安像塔)



寛政3年（1791）先崎雲祥寺



天保7年（1836）井野千手院



嘉永4年（1851）飯重大宮神社

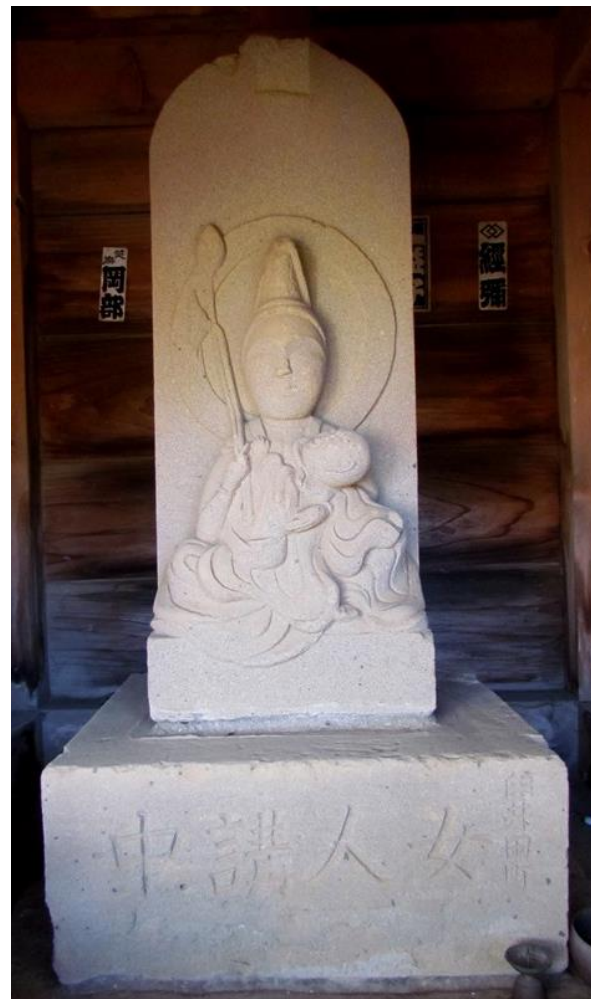
(2) 子安塔-3 (子安像塔)



慶応3年(1867) 青菅正福寺



安政4年(1857) 臼井台342付近



大正3年(1914) 臼井田星神社

(2) 秩父巡拝塔-1



寛政5年（1793）臼井台青年館



江原刑場跡



臼井古峯神社

(2) 秩父巡拝塔-2



享和2年（1802）小竹西福寺



安政6年（1859）井野の古道入口



文久元年（1861）小竹三叉路

(2) 秩父巡拝塔-3



弘化4年 (1847)
下志津報恩寺

井野千手院



小竹西福寺



第4部

北総の子安像塔



成田市北須賀白旗神社

左は 天明8年(1788)の如意輪観音十九夜塔

右は 天明2年(1782)の子安塔



小竹西ノ作の地藏像の子安塔群

(1) 子安塔とは

子安像塔とは

子安観音・子安明神など、乳幼児を抱いた神仏像が刻まれている石塔や石祠

子安塔とは

子授け・安産・子供の健やかな成育を祈願するために子安講などのムラの女性たちが造立した石塔や石祠

子安像塔のほか、「子安観音」「子安明神」などの文字碑や石塔を含む

子安講とは

江戸時代、二世安楽を念誦する念仏講から女人成仏を如意輪観音に祈願する十九夜講へ

さらに、江戸後期からムラのお嫁さんが安産子育てのご利益と親睦を目的に集う子安講へ

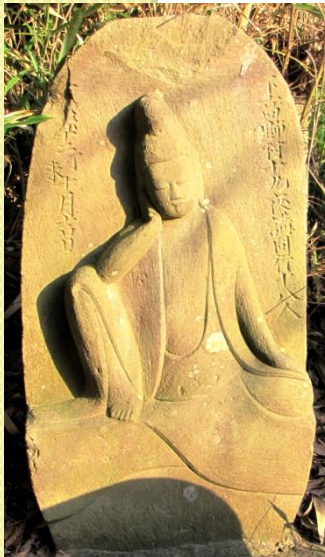


安永5年(1776)
瀧水寺(旧本埜村)

(1) -2下高野 福蔵院の風景



如意輪観音像が16基、最新2014年までの子安塔が14基、新旧31基が並ぶ



享保12年（1727）



天保10年（1827）



大正9年（11920）～昭和15年（1940）

(1) -3 八千代市 高津観音寺の十九夜塔と子安塔



現代の高津の子安講



高津観音寺に並ぶ十九夜塔と子安塔14基

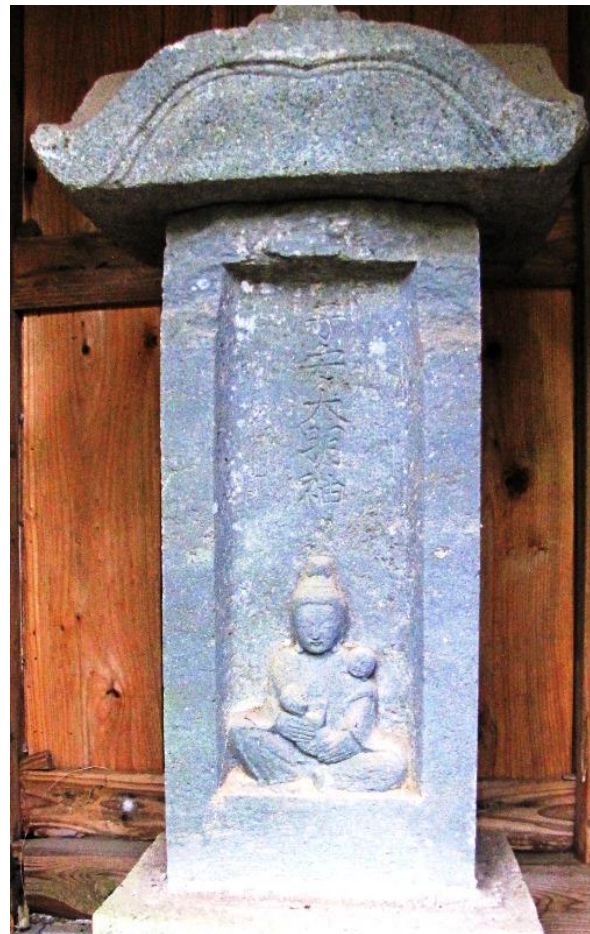
延宝2年(1674)～明治6年(1873)の7基は、如意輪観音像
明治19年(1886)～昭和25年(1950)の6基は子安観音像
昭和57年(1982)は、聖観音像



(2) -I 佐倉市の江戸中期の子安塔-I



元文4 (1739) 小竹四社明神
「子安大明神」石祠



天明3年 (1783) 大佐倉麻賀多神社



寛政3年 (1771) 先崎雲祥寺

(2) -2 佐倉市の江戸中期の子安塔-2



寛政6年（1794）鐫木周徳院



寛政12年（1800）飯野観音



享和元年（1801）大蛇町神明神社

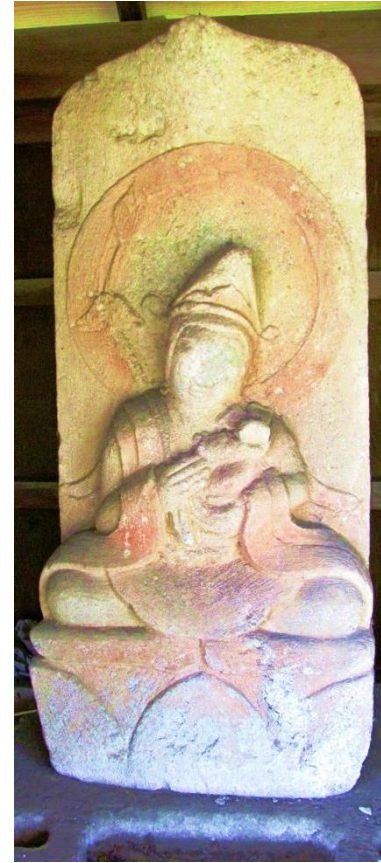
(2) -3 佐倉市の江戸後期の子安塔



文化8年（1811）角来八幡神社



文化8年（1811）本佐倉 妙見社



天保6年（1835）山崎弁天様



文久4年（1864）畔田正光寺

(2) -4 佐倉市の近現代の子安塔



明治16年 (1883)
上志津西福寺



明治32年 (1899)
小竹西作地藏堂



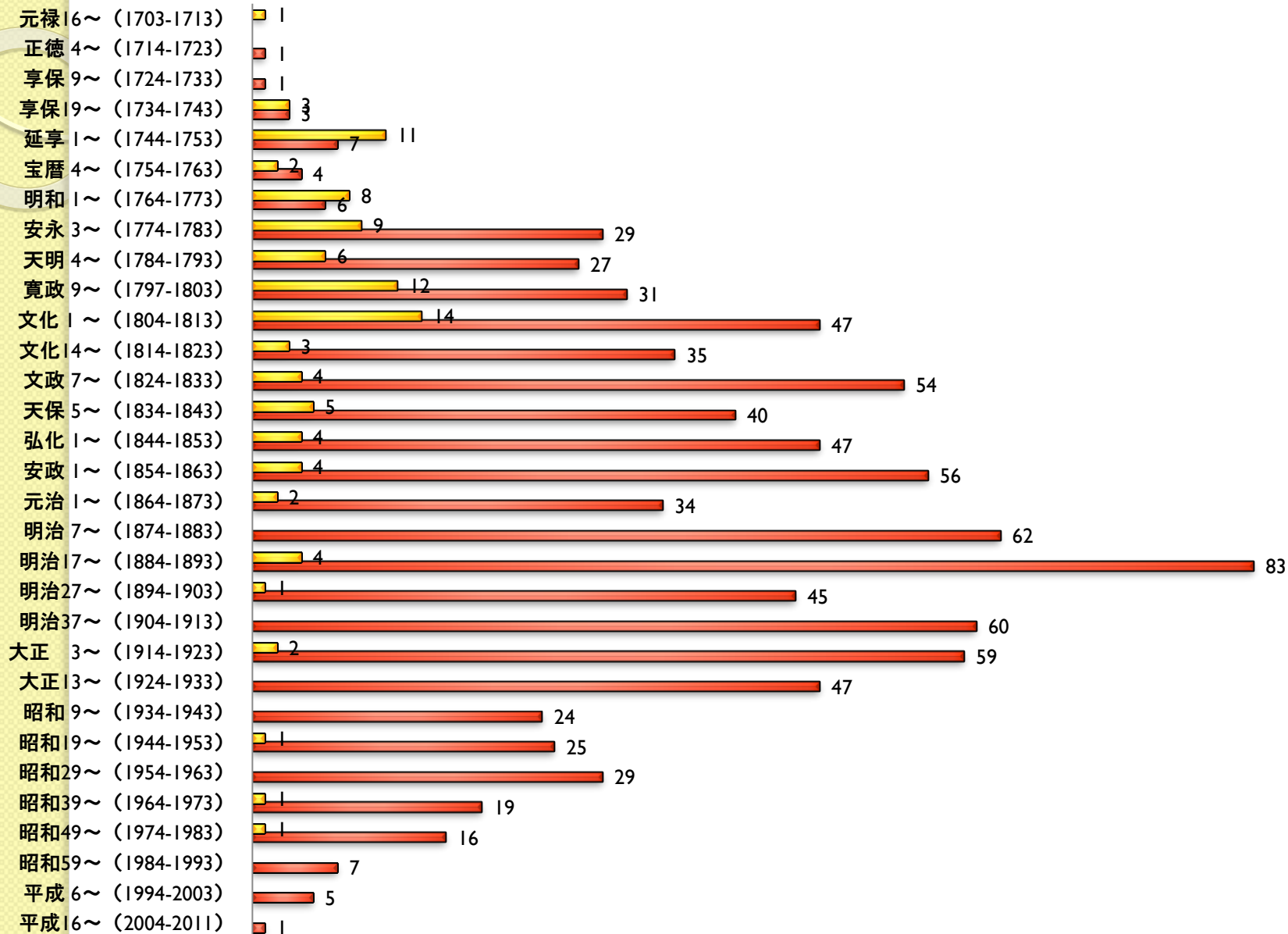
昭和15年 (1940)
先崎雲祥寺



現代 井野千手院

北総の子安塔数の推移

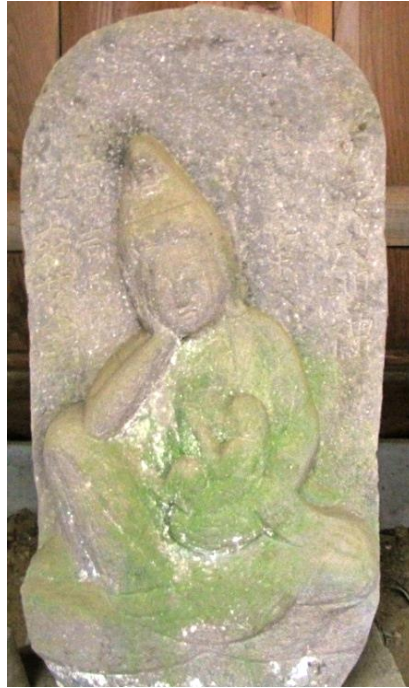
■文字のみの子安石塔・石祠 ■子安像塔数（墓標仏を含む）



(3) -1 北総の子安塔の初発 酒々井町の子安様



享保18年(1733)
尾上住吉神社



宝暦元年(1751)



元文5年(1740)
柏木新光寺跡墓地



(3) -2 北総の子安塔 石祠に浮彫された子安像塔



延享元年（1744）
酒々井町下岩橋 大仏頂寺



明和 7年（1770）
酒々井町伊篠 白幡神社



天明3年（1783）
佐倉市大佐倉 麻賀多神社

(3) -3 北総の子安塔 如意輪観音の思惟相の子安像塔



宝暦4年(1754)
酒々井町酒々井朝日神社



安永5年(1776)
酒々井町酒々井新堀



宝暦12年(1762)
成田市松崎 富宮神社



天明3年(1783)
成田市飯仲住吉神社

北総の子安塔を訪ねて

下総町（現成田市）と成田市北須賀の子安さま



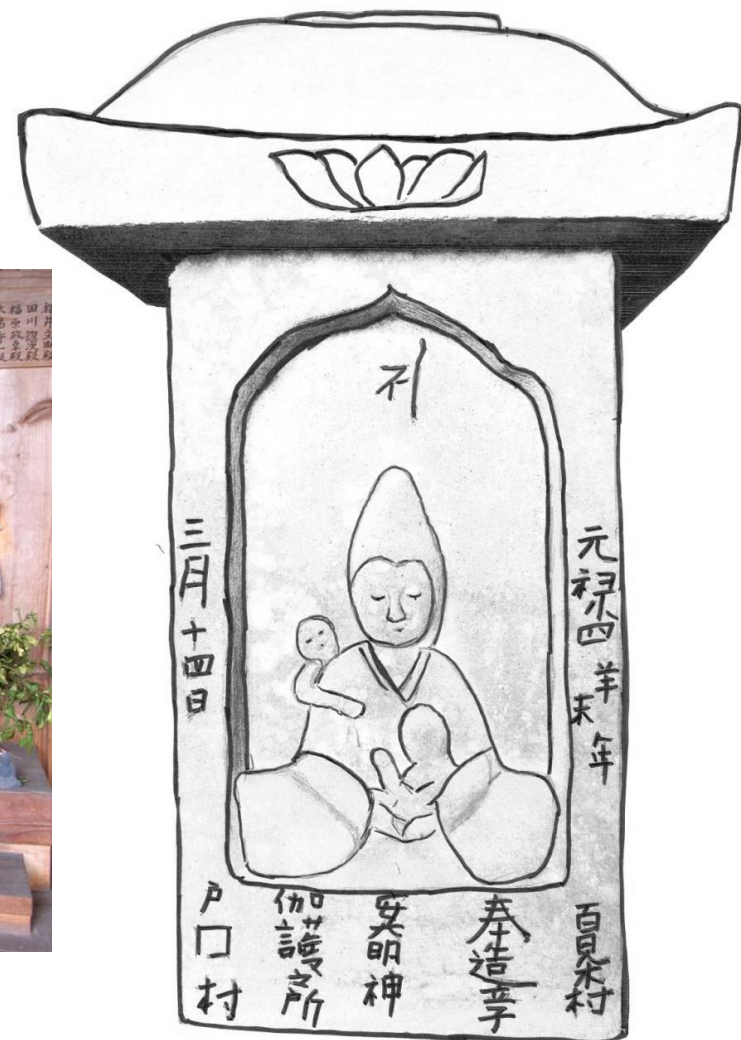
明和元年(1764) 下総町 高・台十字路



左は 天明8年（1788）の如意輪観音十九夜塔
社

北須賀白旗神 天明2年(1782)

(4) -1 子安塔成立のルーツを訪ねて 袖ヶ浦市百目木の子安様-1



(4) -2 子安塔成立のルーツを訪ねて 袖ヶ浦市百目木の子安様-2



(4)-3 子安塔成立のルーツを訪ねて 袖ヶ浦市百目木の子安様-3



白磁の観音像



マリア観音像（東京国立博物館蔵）
安政三年長崎奉行所収納
明～清時代・17世紀徳化窯



マリア観音像
（東京国立博物館蔵）
長崎奉行所旧蔵品
（明～清時代・17世紀
徳化窯



福昌寺白磁観音像
（長野県山ノ内
町）



旧見王寺白磁観音像
（長野県山ノ内町）



白磁マリア観音半跏倚像
（長野県松代町）



白磁製マリア観音像
（千葉県大多喜町）

ABC
明神型
子安像

AC
子安俊

●BC
王中德

Bo 5

abC

...

.....

.....

